

北海道研究林の社会連携

北海道研究林では、研究成果の社会還元や普及推進を目的とした「ひらめき☆ときめきサイエンス」や京都大学の教育研究施設の公開を目的とした「京大ウィークス」などの事業に関連したイベントを行うほか、地元の小学校の遠足や教育委員会の行事の受け入れ、各種団体の研修の受け入れなど様々な社会連携活動を行っています。ほぼすべての活動が、参加者の皆さんに我々の研究林を訪れて頂く形のものですが、昨年度は2019年11月9日・10日に釧路市観光国際交流センターで、釧路市・釧路森林資源活用円卓会議の主催により開催された『くしろ「木づな」フェスティバル2019』に、我々のブースを出展する機会に恵まれ、研究林の活動を広く地域の皆さんにアピールすることができましたので報告します。

会場では、メインステージでのライブやショーや屋外でのチェーンソーアートやハーベスターの実演などが行われ、また釧路管内の森林・林業・林産に関連する35の団体が、ブースを出展しました。我々も『京大研究林「森の研究室」inくしろ』と題して、ブースを出展しました。自然観察会などのイベントは我々も経験はありますが、他所に出かけて行って出展した実績もなく、出展慣れした団体の大盛況なブースの横で、ぼつんと誰もいない寂れたブースになってしまったら逆のアピールになるのではと、準備段階では、とても不安でメインの出し物を絞れず、研究林の紹介のビデオ、ポスター展示、資料の展示、材鑑標本や動物標本の展示、北海道にはいない昆虫の生体展示、落ち葉プールでクイズ体験、VR体験など数撃ちや当たるかもという作戦で様々な出し物を準備し、用意された3m×6mほどのスペースに所狭しと並べました。

結果は、どの出し物もそれなりに関心を持っていただけたようですが、実体顕微鏡を使った標本観察や森林の内部や木の伐倒の様子が見られるVR体験などが特に世代を問わず人気があったような気がします。VR体験は、コロナ禍以前から学生実習の教材開発の一環で準備を始めたところでしたが、リアルなフィールド体験を補う手段として、今後も充実させていければと考えています。

従来の我々が実施するような自然観察会では、せいぜい20~30人の参加ですが、今回の2日間のイベントでは、4千人を超えるお客様が来場されたとのことで、実際に立ち寄って下さった方はそれより少ないとしても、普段、出会わないような数の地域の人々に、北海道研究林の存在や活動を広めることができたのではないかと思います。



実体顕微鏡で標本を観察する



VRで伐倒作業を疑似体験